

平成 26 年度 第 3 回豊橋市男女共同参画審議会 議事録

日 時	平成 27 年 2 月 17 日 (火) 午後 1 時 30 分～3 時 5 分
場 所	豊橋市役所 西館 4 階 災害対策本部室 (東側)
出席者	別紙のとおり
欠席者	なし
傍聴者	なし

(進行：荒木会長)

1 開会

会 長 本日は半数以上の委員が出席しているので、会議は成立している。今回の議事録の署名については、鈴木脩二委員と鈴木真理子委員にお願いしたい。

2 議題

(1) 男女共同参画に関する市民意識調査報告について

※資料に基づき事務局が説明

委 員 前回と今回の調査結果を比較して変動している数値があるが、その要因についてはどう考えているか。

事務局 各数値が変動した要因について、はっきりしたことはわからない。ただし、前回の調査からの変更点として、無作為抽出を行う際の年齢区分を、20代、30代、40代、50代、60代以上の5区分から、国・県の調査と同様に20代、30代、40代、50代、60代、70代以上の6区分へ変更したため、全体に占める高齢者の割合が増えたことによる影響があった可能性はある。

委 員 数値が低下した項目については、今後も同様の傾向が続かないように、ある程度主観が入るとしても、行政として要因の考察を行ってもよいのではないか。

事務局 国や県の例を見ると、基本的には個々の調査項目ごとの考察は行っていない。報告書の前段部分に社会情勢の変化などおおまかな動向を掲載し、その後にデータのみを掲載している事例がある。

委 員 考察を行うことも重要だが、例えば各種セミナーで取り上げるテーマなど、市民の意識や意見をすぐにでも事業に反映させることができる項目もあるので、調査結果のデータを積極的に活用していただきたい。

委 員 この意識調査は無作為抽出により調査票を送付しているとのことだが、例えば対象者を特定の業種に限定した調査を行うことにより、より踏み込んだデータが得られるのではないかと思う。

委 員 調査の対象者となった市民が回答しやすいよう、調査票にさまざまな工夫を行った結果、わずかではあるが回収率が向上したことは評価できると思う。

委員 今回の調査結果を市民に対してどのように周知・啓発していくのか。

事務局 市民に対しては、市内公共施設等で報告書の供覧および概要版の配布を行うほか、市ホームページにも掲載して周知を行う。報告書はあくまでも豊橋市民の男女共同参画に関する意識の現況をまとめたものであるため、数字から受ける印象は人それぞれで異なると思うが、結果を見て考えてもらうこと自体が啓発になるのではないかと思う。

委員 多くの市民が目を通す紙媒体である広報とよはしに、今回の調査結果に関する記事や、毎号連載形式の男女共同参画に関するコラム等を掲載する予定はあるか。

事務局 広報とよはしは空きスペースが足りないことが多く、単に結果を公表する内容の記事やコラムの掲載はかなり難しいが、今後検討していきたい。また、広報の特集記事を作成する際には、今回のデータをグラフ形式で掲載するなどして、効果的に活用していく。

委員 小・中学生や高校生に対して啓発を行うことで、その親にまで浸透していくことが期待できる。今回のデータは学校出前講座等で積極的に活用していただきたい。

委員 平成 23 年の前回調査と比較して、「無回答」の割合が増えた項目が多い。「男女共同参画」という言葉に対して慣れてしまった方が多いのではないかと考える。「なぜ今男女共同参画を推進する必要があるのか」をしっかりと伝えるとともに、市民に危機感を持ってもらう必要があるのではないかと思う。

事務局 「豊橋市男女共同参画行動計画 とよはしハーモニープラン 2013-2017」の中で、窓口設置後に設定することとなっていた「DV相談窓口の認知度」の目標値について、県内他都市の実績等を踏まえて検討した結果、「平成 29 年度に 40.0%」に設定したいと考えているが、ご意見をお聞きしたい。

委員 1 人でも多くの市民に、支援内容等も含めて相談窓口が認知されるよう地道に取り組みを続けることが重要なのであって、必ずしも認知度の数字にこだわりすぎる必要はないと考える。

委員 検討した結果、実現可能な最低限度の目標値として 40.0%という数字を掲げるのであれば、妥当なところではないかと考える。今後も取り組みを進める中で経過を注視しながら、この目標値が達成できたときは、さらに高い目標値を設定し、理想である 100%の認知度を目指していくなど、柔軟な対応を取ればよいのではないか。

事務局 委員からご理解をいただけたということで、「DV相談窓口の認知度」の目標値については「平成 29 年度に 40.0%」に設定し、今後も取り組みを進めていく。

(2) DV相談事業について

※資料に基づき事務局が説明

委員 男性からのDV相談もあったとのことだが、どんな内容だったのか。

事務局 妻から殴られる、暴言を浴びせられるという内容の相談があった。中には、DV相

談として受けたものの、実際は高齢者虐待といえるケースもあった。

委員 DV相談を受けたことで相談者が安心したとしても、その場だけのことであって、根本的な問題解決にはならない。また、リピーターへの対応ルールをしっかり決めておかないと、なし崩し的に何度も相談を受けることになり、相談を受ける側にとって大きな問題となる。真の解決を目指すのであれば、加害者への対応も視野に入れていかなければならないと思う。

会長 それでは、事務局は委員の皆さんのご意見などを今後の参考にしていただきたい。

閉会

平成27年3月20日

議事録署名者

鈴木 脩二 ⑩

鈴木 真理子 ⑩

第3回豊橋市男女共同参画審議会 出席者名簿

No	氏名	選任区分
1	あらき ひとこ 荒木 仁子	豊橋商工会議所女性会元会長
2	あんどう はるき 安藤 春樹	公募
3	いとう ともゆき 伊藤 友之	豊橋農業協同組合常務
4	きのした たかお 木之下 隆夫	愛知大学文学部教授
5	すずき しゅうじ 鈴木 脩二	豊橋人権擁護委員
6	すずき まりこ 鈴木 真理子	豊橋女性団体連絡会副会長
7	とさき ふみこ 戸崎 史子	公募
8	ほしの りえ 星野 里依	豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会会計

<事務局>

市民協働推進課 課 長 中山 久美子
 主 幹 村田 直広
 課長補佐 小久保 雅司
 主 査 伊藤 由美子
 主 事 青木 保憲
 事 務 員 姜 上